

平成29年度 第4回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会  
( 概 要 )

- 1 開催日時 平成30年3月7日(水) 13時30分～15時30分
- 2 開催場所 中部森林管理局 局長応接室
- 3 検討内容 (1) 国有林材供給調整対策について  
(2) 情報交換等  
(3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・ 木曽ブロックのヒノキは、土台を中心に輸出が活発であるのと、冬場の材は変色しにくく内装材に向いており、この時期にピンポイントで仕入れたいとの業者もいることから価格は上昇傾向にある。
- ・ 岐阜県では価格は上昇しているが、ほとんどの材が大手の工場に流れている状況。大手は現在、材集めに苦労している。大手の欲しい径級は取り合いになるが、そこから外れた材は買い手がつかないものもある。売れ筋だけが奪い合いの状態である。
- ・ 供給調整の必要性はないが、合板の原木不足が深刻。合板の需要が多く、フル稼働の状態である。長野県は例年に比べ出材量は変わらないが、全体的な生産量を上げる必要性はあると感じる。
- ・ 長野県は生産関係の林業従事者は減少傾向になく、通年雇用は増えてきているが、生産量は足踏み状態である。事業地確保が進まないのが要因である。
- ・ 富山県は豪雪の影響もあり、2月は通常の半分以下の入荷量。三重県の合板工場、愛知県の製材工場の稼働が目前であり、現在でも多方面からも集荷しており、今後の原木の集荷に不安を感じる。スギは今後取り合いになってくることから、それに見合う生産量を確保してもらいたい。
- ・ 今のままではA材がB材に食われてしまう。最低でも地域にある公共建築物には、地域の材を地域の製材工場が挽き、地域の工務店が連携して地域に建てる仕組みづくりをお願いしたい。それにより地域が活性化する。計画段階から時間をかけて木造化するよう取り組んで欲しい。
- ・ 公共建築物は、木造でも集成材が多く、無垢材が使われない。工夫をすれば無垢材でも十分建設できるはずである。行政には無垢材を使用するような取り組みをお願いしたい。